２０２４年１１月の総評に代えて

○林　　桂○

●azusa●（京都府　23歳）

病棟に消灯のある冬銀河

【評】「消灯のある」の言い回しが、「病棟」を強く感じさせる。私たちの日常生活に消灯する時間があるのは当然である。それと同じように病棟にも消灯時間がある。それだけのことのように思われるが、「ある」には、日常との断絶が意識されている時間のように響く。

●神崎まい●（群馬県　18歳）

冬構え画鋲落ちなくなるまで刺す

【評】冬構えから、この画鋲は外壁にさそうとしているように見える。強い風にも落ちないように。「作者」の決意のようなものが込められている感じだ。

●荒谷　玄●（京都府　20歳）

曇り空に閉じ込められて
先生は
それでもゴッホは幸福だと言う

【評】「先生」は、どのような先生だろう。中高の先生か。大学の先生か。画家か。ゴッホの人生を幸せな人生だと評する。「それでも」に、必ずしも幸福とは思われない人生に思えるが、「それでも」幸せなのだというのであろう。「曇り空に閉じ込められて」が、「先生」の人生を暗示する。「先生」もまた「それでも」幸せなのだろうか。

●金光　舞●（埼玉県　18歳）

着膨れて
かにくりーむころっけになる

【評】「かにくりーむころっけになる」が微笑ましい。ひらがな書きだ。「かにくりーむころっけ」は自画像。いい意味での自己愛を感じさせる。

●ムクロジ●（群馬県　17歳）

マヨネーズ逆さに置いて初時雨

【評】残り少なくなったマヨネーズを、使いやすいように逆さに保存する。それと「初時雨」との取り合わせが絶妙。向寒の季節の物寂しさを感じさせる。こんなところに寂しさがあったのかと思う。

●奥井　健太●（滋賀県　22歳）

燃えるものばかりの部屋を冬の蝿

【評】運良く暖かい部屋にいて、冬を生き延びている蝿。その暖かい部屋は燃えるものばかりであるとふと思う。私たちが暖かく過ごそうとすれば、こんな材質のものになるだろう。「燃えるものばかり」の視点は、儚い生活の深掘りになっているだろうか。

●佐藤　知春●（東京都　21歳）

棲みにくい水道都市の冬星座

【評】「水道都市」という捉え方に眼を洗われる。都市の特徴をいろいろ言えるだ

ろうが、水道が張り巡らされ繋がっていることこそ「都市」の特徴かもしれない。「棲みにくい」は、そうしたインフラとは違った次元のもの。「冬星座」も光り淡く棲みにくそうである。

●ほしはかせ●（群馬県　59歳）

蒟蒻を切る

淋しさの自由律

【評】コンニャクを切る行為と、一行空けての「淋しさの自由律」の関係は明瞭ではない。しかし、コンニャクを切るときの感覚は他のものにはないものだろう。自由律が自由律俳句を指すものであれば、現在の自由律俳句がおかれている情況を「淋しさ」というのも、コンニャクを切る感覚に通じるものがあるかもしれない。

●伊東マンション●（東京都　32歳）

親ガチャも
トラウマも伏線回収で
報われてくれ、人生

【評】人生の「伏線回収」は、私たちが潜

在的な願いとして持っているものだろうと気づかされる。生まれに関わる「親ガチャ」も、育ちに関わる「トラウマ」も、いずれかの段階で昇華して、大団円を迎えて欲しいと。生きる意味の根本的願望だろう。

●波津　ゆみ●（神奈川県　24歳）

いつもより
ちょっとおしゃべり
きみのとなり
こいぬみたいな
わたしのしっぽ

【評】「わたしのしっぽ」。微笑ましい。「しっぽあるのかい」と、突っ込みたくなる。童話や民話の中で、しっぽは隠しても隠しきれない「本性」「正体」をあらわすものだ。しっぽが喜んでいるのだ。

●伊田　鮎●（東京都　55歳）

薔薇風邪の患者のやけに多い日だ

【評】「薔薇風邪」は、作者の造語だろうか。一度罹患してみてもいいと思ってし

まう美しい名前だ。

●夜行●（神奈川県　40歳）

ぷてらのどん
てんどん
かけぶとん

【評】一瞬、ジョイマンのラップのようだと思う。韻の踏み方が絶妙。各行のイメージの飛躍も面白い。それでいて「かけぶとん」に着地。そこに着地するのかいと突っ込みたくなる。

●八尾保醒●（東京都　20歳）

友の名に死ぬまである雪羨ましく

【評】「死ぬまである」が、名前では当然のことながら、羨望の深さを感じさせる。自分の名前は基本的に自由にならない。必ずしも気に入るものでもない。一方、他人の名前には心惹かれるものもある。「作者」のお気に入りは「雪」。自分には持つことのできない「雪」を名前に持つ友人を羨む。しかも、死ぬまで持ち続けられるのだ。私たちは、こんな小さな羨望の中で生きていることに気づく。